

研修会報告

令和 3 年 11 月 6 日

文 責： 今野 かおり

研修会テーマ「細胞診の基礎（問題出題形式による細胞同定）」

開催日時 2021 年 11 月 6 日（土） 13：00 ～ 16：00

会 場 Zoom による Web 研修会

司 会 佐藤 しげみ

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 77 名 入会申請中会員 0 名 非会員 1 名 賛助会員 0 名 学生 6 名

合計 84 名

講演 1 「問題出題形式による細胞同定」

東北大学病院 安達 友津 技師

講演 2 「コロナ禍の細胞検査士認定試験体験談」

宮城県対がん協会 伊勢 愛美 技師

講演 3 「解答解説」

東北大学病院 安達 友津 技師

東北医科薬科大学病院 佐藤 正樹 技師

仙台医療センター 齋藤 邦倫 技師

仙台厚生病院 尾池 裕子 技師

東北公済病院 高橋 良輔 技師

宮城県対がん協会 横浜 一樹 技師

内容

顕微鏡検査とは若干異なるが、スライド投影でもある程度の診断ポイントが掴めることから、前半は臨床情報と画像、回答選択肢のみの投影を 33 問行った。

講演では、2020 年度細胞検査士認定試験の受験者から体験談を語ってもらった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により試験形式も大きく変わり、感染対策から会場レイアウト、顕鏡方法や回答方式、持ち物に至るまで詳しく説明してもらったため、大きな反響があった。

実際の出題傾向に沿って分野と時間を配分し、後半の解説では臨床情報のどこに着目すべきか、疾患の特性、鑑別に上がる疾患との相違点などを説明した。受験生でなくとも施設によって提出される検体には偏りが見られることから、実際細胞検査士として業務している方々からも久しぶりに各分野を確認出来たとの声がみられた。學術部の配慮により宮城県外からの参加が可能となり、実際東北のみならず北海道から長崎県まで 16 都道府県

にわたり、細胞診ではいまだかつてない84名という参加者数を記録することとなった。研修会終了後のアンケートには、研修会が各地で中止されているこの様な状況下で、しかもweb開催であることから全国から参加出来て良かったという感謝の声が数多く得られた。この中には学生も6名含まれており、臨床検査技師育成の一役をも担えたのではないだろうか。今後も県外の受講者を受け入れて欲しいという要望もみられた。

臨床検査技師に占める細胞検査士数は決して多くは無く、以前から研修会を開催しても多くの参加者数を得ることが難しかったため、この様な機会は貴重であったと実感している。